

	ニュータウン中央南支部（山下委員）	本埜支部（小林委員）	木下支部（中村委員）	小林支部（山口委員）
実施したこと（自助）	<ul style="list-style-type: none"> ・15号、19号の際は風対策として、シャッターを閉める、物干し台を倒す、盆栽を片付け、樹の副木等の対策を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当地区の一部を建物、周辺等の被害状況の様子を確認し、巡回した。 ・ビニールハウス等の損壊などにあったところは写真を撮っておいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災行政無線を聞く（聞き取れなかった。） ・防災行政無線テレホンサービスの確認 ・市HP、国土交通省、TV他、情報を逐一確認 ・市防災メールの再登録 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活水の確保（飲料水・トイレ用などに鍋、やかん、風呂等に水を確保） ・懐中電灯やラジオの電池確認 ・印西市防災メールなどによる情報収集
実施したこと（共助）	<ul style="list-style-type: none"> ・台風通過後、近隣の巡回、近所の保険代理店へ被害状況の聞き取りを実施した。近隣では、エアコン室外機の破損が一部あったのみで被害報告はなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・倒木による影響で道路が遮断されたため、近所の方に応援協力を得て処理できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所の廊下が濡れて、滑りやすかったのでモップでふき取った。 ・水のペットボトルを必要な人に提供した。 ・利根川の水位確認を1、2時間おきに行い、情報交換したり、心配が大きい人には近隣市町村や親戚宅等に避難するよう促した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人達と倒木等の撤去作業
民生委員、支部社協、社会福祉法人の立場で行ったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所設置状況の確認を行ったが、当地区は該当しなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯に緊急情報が入ったため、防災課に現状の確認を行った。電話での確認であったが、対応が困難な状況であったので、正確な情報を得るのにやや時間がかかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡網の伝達・避難所開設の情報等を知らせ、避難意思を確認。・独居1名、高齢者1名を避難所へ車で送迎した。・避難所の設備、様子を確認し、市役所へ不足分を取りに行った。・担当地区のほぼ全戸を見て回り、現状を確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員児童委員の連絡網による高齢者早期避難の声かけを行うよう市から依頼があったため、気になる高齢者の見守りを行った。 ・支部社協として、当日の取組は特にないが、後日、被災地、被災者への義援金を募った。
他からの支援（情報提供を含めて）	—	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が避難場所をよくわからず、近くの老人ホームに出向いた。施設職員から連絡を受け、施設の方で対応するとの連絡を受けた。防災無線が風向きによっては聞きづらい所があるので、正確に伝わらなかったと思われる。直接の高齢者からの問い合わせは殆どなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市のHPで避難所情報を確認 ・国土交通省の河川情報で利根川の水位を確認 	—
課題と思われること	—	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員としては、担当地区が広いと全て見るのは困難であり、地区担当の自治会長、消防団と組織的に連携できる形（地区ごと）がとれるようにしたらよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災行政無線が全く聞き取れなかったもので、もっとゆっくり、2、3回ずつ放送すべき。 ・避難所の設備が整っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市からの情報提供について避難所開設について：土砂災害と大雨浸水対応の避難場所指示について、違うので混乱があったようだ。
		<ul style="list-style-type: none"> ・避難困難者の移動手段について、タクシーのみでの対応は現実的でないと思われる。スワンバスなど臨時便を出すなどできないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップの再確認と状況に応じた対応の仕方を日頃より、家族や近隣同士でも話し合っておくこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難行動要支援者について市の地域防災計画では、支援担当が「福祉班、社協」となっているが、現状はどこがリーダーシップをとるのかわからない。（支部社協？民生委員？町内会？自主防災組織？）
		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の立地条件によって異なるが、仮に利根川が決壊したと想定した場合、各地区による水位は時間帯でどの程度に達するのか図面によるマップなどで各家庭に配布、紹介できれば水害に対する関心と知識を少しでも高めることができ、安心感も得られるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・刻々と変わる情報の伝達の仕方 ・民生委員の連絡網のあり方 	

■ 台風15号、19号及び10月25日の大雨の際の地域ごとの取組み状況 (2/4)

	大森・永治支部（渡邊委員）	船穂・牧の原支部（岩本委員）	ニュータウン中央北支部（本田委員）	印旛支部（関野委員）
実施したこと（自助）	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅まわりの木の伐採 ・かわらの修理 ・ビニールハウスの張り替え等 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅の周りの下水溝の落葉を取り払い排水を良くした。 ・雨戸を閉めた。 	—
実施したこと（共助）	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者世帯への給水
民生委員、支部社協、社会福祉法人の立場で行ったこと	—	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしの高齢者世帯・高齢者のみの世帯に対し、避難所開設の案内及び移動手段のない高齢者を避難所に連れて行った。 ・地区内の避難所を訪問し、避難状況を確認した。 ・対象世帯でマンションにお住まいの高齢者に対し、ベランダの片付け等強風対策をヒアリングした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・台風通過後地域の被災状況を調べた。 	—
他からの支援（情報提供を含めて）	—	—	—	—
課題と思われること	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅だけで、他に手が回らない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自治会や自主防災組織はあるものの、今回は実際に機能していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の地域で下水溝が落葉で詰まり、水が溜まったと聞いた。落葉の除去は簡単にできるので実施したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・停電が長期にわたると、特に高齢者世帯などは、車が使用できない為、生活が困難となる。災害時は特に高齢者世帯対策が必要と感じた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな情報からどう対処していくかが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各民生委員は対象者に対する訪問・声かけ等実施したが、この度は直接的な支援行動は少なくて済んだが、これ以上の災害時には実際に対応できるのか物理的に不安が多い。 		

■ 台風15号、19号及び10月25日の大雨の際の地域ごとの取組み状況 (3/4)

	印旛地区 (山野委員)	民生委員児童委員 (吉野委員)	(社) 秋桜会 (三島木委員)
実施したこと (自助)	—	—	—
実施したこと (共助)	—	—	—
民生委員、支部社協、社会福祉法人の立場で行ったこと	—	<ul style="list-style-type: none"> ・要支援者の送迎 ・ブルーシート配付 ・見守り活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・水害の警報による自法人内の別の事業所への避難 ・独居の高齢者への安否確認 ・台風当日の事業所のサービス中止 ・他事業所への物資 (食料他) の提供
他からの支援 (情報提供を含めて)	—	<ul style="list-style-type: none"> ・市から送迎について ・避難所開設 	—
課題と思われること	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の集まりがあったので、ヒアリングをしたが、特になかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動計画の早期作成と情報提供 ・避難所までの交通手段の確保 ・ボランティア確保 (避難所) ・自主防災組織の役割 	<ul style="list-style-type: none"> ・当初情報に混乱があり、確認に手間取った。 ・一部職員が自宅の避難の為、出社できなかった。

■ 台風15号、19号及び10月25日の大雨の際の地域ごとの取組み状況 (4/4)

	(社) 社会福祉協議会 (近藤委員)
実施したこと (自助)	台風15号の市内の被害状況を受けて、19号以降は停電等の対策として飲料水、食料、乾電池、携帯電話の充電バッテリーを確保した。
実施したこと (共助)	—
民生委員、支部社協、社会福祉法人の立場で行ったこと	<p>○台風15号 (9/9)</p> <p>印旛、本埜地域に被害箇所が多くあったことから、当該支部役員に連絡し、地域、近所で建物被害、停電等状況の情報を収集した。また、職員2名ずつの2班体制で、当該地域の見回りをし、倉庫等が倒壊しているお宅には「何かお困りのことはありませんか?」というチラシを配付した。</p> <p>印旛地区の停電している数軒に伺い、困っていることを聞いたところ、「お風呂に入りたい。」とのことから、最寄りの市施設のシャワー室の利用ができるように、市に協力を求め、利用できるようにした。また、当該地区に社協所有の発電機を共同利用できるように持参した。</p> <p>印旛地域で倒竹により県道への接道が塞がっているお宅に対し、倒竹の片づけをするボランティアを探索し、派遣した。</p> <p>印旛地域で倉庫が倒壊したお宅に対し、その片づけをするボランティアを探索し、派遣した。</p> <p>印旛地域でブルーシート展張をしたものが、12月になって飛ばされたことからブルーシート展張を改めて行うため、他市のボランティアグループの協力を仰ぐため、他市社協に依頼、調整し、他市のボランティアグループがブルーシートを展張し直した。</p> <p>(八街市災害ボランティアセンター、鋸南町災害ボランティアセンター、富津市災害ボランティアセンターに運営支援のため職員を派遣した。(延べ6日間11名))</p> <p>○台風19号 (10/12)</p> <p>利根川の越水、堤防決壊に備え、事業所の必要な情報等を緊急避難した。</p> <p>各種サービス利用者の安否状況を確認した。</p> <p>○10月25日の大雨</p> <p>(長柄町災害ボランティアセンターに運営支援のため職員を派遣した。(3日間6名))</p>
他からの支援 (情報提供を含めて)	・印旛地域でブルーシート展張をしたものが、12月になって飛ばされたことからブルーシート展張を改めて行うため、他市のボランティアグループの協力を仰ぐため、他市社協に依頼、調整し、他市のボランティアグループがブルーシートを展張し直した。(再掲)
課題と思われること	<ul style="list-style-type: none"> ・被害、被災者等の詳細な情報を入手する方法を協議すること。 ・地震に対する備えに目を向けがちであったが、風水害に対する備えについても改めて検討する必要があること。 ・この経験を活かして、社協として災害ボランティアセンターの運営について、検討すること。